

PET サマーセミナー2022 in 甲府 印象記

村上 康二
Murakami Koji

今年のPETサマーセミナーは山梨県甲府市にある甲府記念日ホテルにおいて大会長山梨PET画像診断クリニック院長佐藤葉子先生、副大会長山梨大学医学部放射線科教授大西洋先生のもとで実施された。会期は7月29日から31日までであり、例年開催されていた8月の最終週末よりも時期的に1か月ほど早かった。これは今年9月初めに開催される日本核医学会総会、世界核医学会総会と時期をずらすためとのことである。この時期には他に重なる学会や研究会はなく、また本格的な夏休みのピーク前であり、非常に好適な時期であったものと思われる。会期中は天気にも恵まれ、甲府は連日の猛暑日であった。

会場となった甲府記念日ホテル周辺は湯山温泉と呼ばれる温泉郷であり、観光ガイドには信玄の隠し湯とのキャッチフレーズがあった。さぞかし山深い地域なのだろうと考えていたところ、実際はJR甲府駅からバスで20分ほどの距離であり、ホテルの周囲は住宅地であった。甲府市街地にこのような温泉があるとは意外である。ホテルの名前が特徴的であるが、2、3年前にリニューアルオープンした際に記念日にふさわしいイベントが開催できるようにと名付けられたそうであり、非常に豪華な内装であった。会場となった宴会場はロビーを入った右側に並んでおり、一般客と動線で区切られた形で配置されていたため、イベントを開くには非常に好都合であった。

筆者は最終日まで参加していたが、最後まで聴講していた参加者が多く、熱気に満ちた会であった。新型コロナウイルスのオミクロン株BA5が猛威を振るう中、感染対策にも力を入れ、無事にこのような

盛大な会を終えた佐藤先生をはじめ、スタッフの方々に心より感謝を申し上げたい。昨年のPETサマーセミナーin下呂では、直前に岐阜県に緊急事態宣言が出される等新型コロナ禍の影響を強く受け、現地参加者はかなり少なかったが、今年は現地参加者だけでほぼ300人、それにオンデマンド参加者が136人とのことである。コロナ感染症以前は毎年平均500~600人の参加者だったので、現地参加者はまだ完全に回復とまでは言えないが、オンデマンド参加者を含めたトータルの参加者はほぼ例年並みに戻ってきている。来年こそは新型コロナウイルス感染症のまん延前に戻り100%現地参加によるサマーセミナーの開催ができることを期待したい。

参加者が増えたと言っても、今回の会場は収容人員400名1会場、200人名2会場の合計3会場で実施されたため、どの会場も比較的余裕があり決して密になることは無かった。座席は1つおきに着席するようになっており、隣合わせで座ることができないように配慮されていた。その他にも感染対策として、毎日検温した証として色の異なるシールを名札に貼り付ける、会場入り口にアルコール消毒薬を設置する等、Withコロナ時代の集会のモデルケースとなるような多くの工夫が見られた。来年のPETサマーセミナーでも感染対策は不可避と考えており、多くの点で参考にさせていただきたいと思う。

さて、プログラムに目を向けると、例年と異なる点がいくつか見受けられた。ワークインプログレスは各企業が自社の最新の技術を紹介するものであるが、例年は第1日目の午後に行われ、いきなりアクセル全開の論客!?が鋭い突っ込みを行う、企業関

係者(特に若手)にとっては鬼門のセッションであった。ところが今年は2日目の午後になったため、1日目の夜に深酒をするとちょうど眠くなる時間帯である。例年よりも比較的議論がおとなしく感じたのは筆者の思い過ごしであろうか。

また例年は2日目の午後に観光ツアーが入り、その後に懇親会という流れであったが、今年はどちらも感染防護の点から中止となった。山梨県であればワイナリーツアー等、さぞかし現地の観光も楽しめたものと思われるが、誠に残念である。

その代わりとして、夜7時からは管楽アンサンブル演奏会が主会場で開催された(写真)。地元で演奏を続けている6人からなるグループであり、クラシックだけでなく、ジャズやビートルズナンバー、そして日本の名曲等バラエティに富んだ選曲で1時間弱の時間があっという間に流れた。2日目のプログラムは朝9時(会議に参加すると朝8時)から午後6時45分まで組まれており、全部参加すると10時間前後の長丁場であったため、その後に催されたアンサンブルは飽和状態になった頭と座り続けて腰痛となった体を癒すには絶好の企画であった。

学術的な内容面においては、まず「乳癌におけるPETのこれから」というセッションは乳房PETの第一人者である佐藤先生らしい企画と感じられた。残念ながら筆者は同時時間帯に並列のセッションで司会をやっていたため聴講はかなわなかったが、今回の目玉セッションの1つであろう。

また大会長企画である「PETを測ろう！」も佐藤大会長の独自性が出ていた。本来PETは他の画像診断に比較して定量評価に優れるという特徴を有しているが、現在のPET(特にFDG-PET)は、ついで定的評価、すなわち集積の強弱だけで診断をしてしまう傾向にある。本企画は改めてPET本来の「測定技術」に立ち戻り、その意義や定量評価の精度向上に対する取組み、技術革新等が議論されていた。PETの「定量性の高さ」は他の画像診断の追随を許さない領域であり、今後CTやMRI、超音波検査等他の画像診断との差別化を図る上でもますます重要視されるべきであろう。

もう1つの特徴的な企画として、最終日の「放射線治療のためのPET」がある。これは佐藤先生よりは、副大会長である大西洋先生の立案と思われる。大西先生はがんの画像診断にも造詣が深い放射線治



写真 2日目夕刻に開催された管楽アンサンブル演奏会

療医として知られており、PETの情報を放射線治療に生かしたいという意欲的な試みであったと思う。

ほぼ完璧だった本セミナーであるが、残念なことが1つだけあった。それは2日目の夜にトワイライトセミナーが3つの会場で実施されたが、どの会場も空席が目立ち、せっかくの弁当が大量に余っていたことである。ホテルの従業員や大会スタッフ、企業関係者等周囲の関係者に持ち帰ってもらっていたが、それでも大量に残っており、非常にもったいないことである。事前に予約制にするとか、弁当ではなく軽食だけにするとか工夫が必要と感じた。

最後に、来年のPETサマーセミナーの宣伝をさせていただくこととする。来年のPETサマーセミナーは8月25日(金)~27日(日)の予定で千葉県成田市のアートホテル成田(旧成田ビューホテル)で開催される。成田市に隣接した佐倉市は蘭医佐藤泰然が天保14(1843)年に「佐倉順天堂」を開設した開闢かいびやくの地であり、近くには数々のアスリートを生んだ順天堂大学健康科学部のキャンパスもある緑の深い地域である。また成田は日本各地から空路のアクセスが良く、関東各地からは空港へのリムジンバスも出ている。テーマは「PETが拓く核医学の新潮流」とし、FDG-PETの原点回帰と新しい薬剤、治療への応用等取り上げるつもりである。Withコロナ時代における初めての100%現地開催を目指し、ぜひ懇親会と観光の企画を復活させたい。多くの方々の参加を関係者一同心よりお待ちしております。

(順天堂大学医学部放射線科)